高田杏塢

たかた・きょううう

福山藩士、日本画家

経　歴		
生：文化3年（1806年）		
没：明治22年（1889年）、享年84歳		
―	―	父について日置流弓術に精励
―	―	松村呉春、柴田義董に四条派の画技を学ぶ
天保7年（1836年）	30歳	精励20年で金300疋を賜う
天保8年（1837年）2月15日	31歳	勇鷹神社祭典射的において三々九皆中をもって弓一張りを拝領
天保8年（1837年）11月	31歳	藤井松林が入門
天保12年（1841年）	25歳	大目付
弘化2年（1845年）	29歳	軍奉行
弘化4年（1847年）	31歳	兼町奉行、者頭
嘉永6年（1853年）6月	47歳	幕府からの加増封地の請取役
嘉永6年（1853年）6月	47歳	請取役の功により紋付麻上下を賜う
文久元年（1861年）	55歳	元締役
元治元年（1864年）	58歳	旗奉行
元治元年（1864年）	58歳	長州戦争に従軍
慶応元年（1865年）	59歳	長州戦争に従軍
―	―	番頭
明治2年（1869年）5月	63歳	会計局監事
明治2年（1869年）10月	63歳	隠居、山九郎に家督106俵を相続

生い立ちと学業、業績

名は槌五郎、のち段右衛門と改名する。諱は成憲、号は杏塢、晩年になって耳が遠くなり聾翁と号した。

父は高田又次郎成美。兄は吉田介之進豊道、弥十郎弼。

杏塢は父について日置流弓術に精励し、その腕は達人の域だった。
天保7年（1836年）には精励20年で金300疋を賜う。

京都にでて松村呉春、柴田義董に四条派の画技を学び、山水画や人物画を得意とし、筆致に気韻があったという。
天保8年（1837年）には、藤井松林が入門している。

天保12年（1841年）大目付、弘化2年（1845年）軍奉行、弘化4年（1847年）に町奉行を兼ね、者頭に進む。
嘉永6年（1853年）6月、阿部正弘の功績による幕府からの加増封地の請取役を勤めた。
文久元年（1861年）元締役、元治元年（1864年）旗奉行となる。
2回にわたる長州戦争に従軍し、のち番頭となり、明治2年（1869年）会計局監事に任命される。

明治2年（1869年）10月に隠居して、その子高田山九郎に家督106俵を相続させる。
長寿で八十三翁の作品があるという。

夕立	かきくもりすくる外山の夕立に ぬれてや風も涼しかるらん	八十翁
―	―	―
松間紅葉	立ちならぶ松は時雨も染めざれど ははその森のにしき麗はし	
―	―	―
成憲山水ニ併題曰	研池氷解梢忘寒　伸朧春山起筆端 本是雲烟遊楽興　寄言休作画師看	

誠之館所蔵品				
管理№	氏　名	名　称	制作／発行	日　付
00113	高田杏塢　画	日本画「稲に雀」	―	―
05122	高田杏塢　画	日本画「二見が浦」	―	―
07020	藤井松林ほか　画	日本画「福山藩画人花寄書」	―	―

出典1:『平成五年度春季特別展　福山の日本画展』、72頁、福山市立福山城博物館編刊、平成5年4月3日
出典2:『2004年度秋季特別展　福山藩の日本画－歴史がおりなす美の世界－』、72頁、福山城博物館編刊、2004年10月

10日

出典3:『郷賢録』、49頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典4:『福山藩の文人誌』、187頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、昭和63年7月27日

2008年10月8日追加●2009年6月9日更新:本文・出典●2009年7月16日更新:経歴・本文・出典●2010年9月30日更新:経歴・本文●2015年2月28日更新:誠之館所蔵品●2015年12月22日更新:レイアウト・誠之館所蔵品●